

令和2年度生徒指導集中対策，生徒指導実践指定校及び不登校等未然防止推進校
「指定校における取組事例」

学校名	広島県立黒瀬高等学校	校長	吉川 由縁	担当者名	藤本 倫考
-----	------------	----	-------	------	-------

取組事例名 『生徒会行事及び生徒会執行部の取組』

生徒指導に係る連携体制の確立	カウンセリング・マインドをもった教職員と児童生徒との対話	○	主体的な活動を通じた絆づくり
----------------	------------------------------	---	----------------

取組における育てたい資質・能力

生徒の主体的な活動を通して，生徒自らが課題を発見し，解決するといった主体的な学びを推進し，自己の行動が管理でき，人を大切にする心（福祉の心）で人と協働できる資質・能力。

取組のねらい

生徒会活動を通して，望ましい人間関係を形成し，集団や社会の一員としてよりよい学校生活づくりに参画し，協力して諸問題を解決しようとする自主的，実践的な態度を育てる。

取組の具体的内容

○ 新型コロナウイルスによる長期休業明けに校長が生徒会執行部（3年生主体）を招集し，執行部が中心となり行事等を進めてはどうかと話をした。

<結果>

- ① 「いじめ防止」のポスターの標語を全校生徒から募り，ポスターを作成し校内に掲示した。
- ② クラスマッチを開催するか否かを考え，全校生徒にアンケートを実施して4分の3以上の開催希望があり，プレー以外でのマスク着用，用具の消毒などの感染防止策を講じて大会を運営した。
- ③ 体育祭の運営を生徒会執行部がリードして行った。

○ 来年度からの制服の移行時期の廃止に伴い，制服検討委員会での素案を経て，執行部で着こなしについて生徒の立場で話し合いを行った。「制服はきちんと着るべき」という意見が多く出て，意見を学校運営に反映させた。

取組の創意工夫

例年であれば，教員主導で恒例の行事を進めてきたが，生徒会執行部が中心となり，生徒の声を集約し，主体的に運営するよう働きかけた。



生徒会長を中心にまずは生徒だけで自由闊達に意見ができる場をつくり，助言をするようにした。

取組の成果と課題

新型コロナウイルス感染症の影響で，多くの行事が中止や内容の変更を余儀なくされ，例年と同様の学びの機会が失われた。今年度の目標である「主体的な活動を通じた絆づくり」を実践する上で，あえてその環境を利用して生徒の主体性を育むこととした。今年度の取組により，生徒は自分たちの声が学級運営に反映することを実感した。行事前だけであった執行部会が定例化し，よりよい学校づくりに参画している意識を持ちつつある。こうした生徒会執行部の姿を他の生徒もみて，自分の行動規範を作り出せることを期待している。